

**本物。**  
鹿児島県 特産品 特探

2013かごしまの新特産品コンクール 火山の恵み賞  
**ガラス黒薩摩**  
**桜島灰酒器**

手吹きガラス製で、同じ柄は二つとない全てが一点物の酒器(片口・盃)のセット商品。雄大な桜島の力強さと荒々しさをガラスに込めて表現しています。指宿市の宮澤ガラス工房の宮澤裕明さんにお話を伺いました。

黒が映える酒器ですね

こだわりのポイントは

商品作りで大切にしていることは

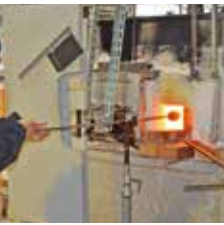


ガラス黒薩摩 桜島灰酒器  
33,600円(税込)  
片口(長さ14cm×幅10cm×高さ8cm)  
盃(直径6cm×高さ6cm)×2個

今回の商品は、鹿児島と桜島をイメージしながら作りました。鹿児島には、薩摩焼の黒薩摩(黒もん)など、黒と付くものがたくさんあります。鹿児島のイメージが「黒」だったので、ガラスに黒色の粉末を使い、力強い黒を表現しました。また、桜島の火山灰を使用して、酒器の中・下部の表面を荒々しく仕上げ、桜島のゴツゴツした手触り感のある作りになりました。

平成26年1月に桜島の大正噴火から100年を迎えることを記念して、桜島に関連したものを作りたいという思いがありました。桜島の火山灰を使用した商品のイメージは以前から持っていました。商品にしたのは今回が初めてです。手吹きガラスに自然の火山灰を吹き付けました。また、銀箔で金色の模様を付け、焼酎文化の華やかで麗しいさまを表現しました。

薩摩焼など伝統の焼き物や美術品などに刺激を受け、そのときの制作環境や自分のコンディションに合わせ、感性のまま自分が作りたいように作っています。イメージは商品作りにとって大切なことです。今回の商品のように、子どもの遊びや女性への贈り物など頭に浮かんだイメージを商品に表現したいと思っています。



窯前で手吹きガラスの実演をする宮澤さん。温度は約1200度。手が作業で熱くなっています。職人の技を感じさせます。

片口に鹿児島の焼酎と水を入れて、盃に注いで飲む。鹿児島を感じながら焼酎を楽しんでいただきたいですね。

手吹きガラスは型を用いず、吹き竿に巻き取ったガラス種を息で吹いて成形します。ガラス種は熱くて軟らかく変形しやすいので、絶えず吹き竿を回転させて作業しなければなりません。酒器の形や厚み、色などのバランスを取ることは難しいですが、完成品の全てが一点物というのも手吹きガラスの魅力です。



「今回の商品には『こんな酒器でお酒を飲みたい』というお酒好きの自分の気持ちも入っています」と笑顔で話す宮澤さん

お客さまにとっても、私にとっても、魅力あるものを作り続けていきたいですね。

**プレゼントコーナー**  
**デザイングラスを3名様にプレゼント。**

**応募締切** 平成26年2月28日(金)  
**応募方法** ハガキ、FAXまたは電子メールに  
①「グラフかごしま」に関するご意見・ご感想 ②郵便番号  
③住所 ④氏名 ⑤年齢 ⑥職業 ⑦電話番号を記入のうえ、下記までお送りください。  
**ハガキ宛先** 〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1 鹿児島県広報課「グラフかごしまプレゼント係」  
**FAX** 099(286)2119 (件名は「グラフかごしまプレゼント」)  
**メール** h-kikaku@pref.kagoshima.lg.jp (件名は「グラフかごしまプレゼント」)  
※いただいた個人情報は、プレゼント送付以外の目的には利用しません。  
※当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。



宮澤ガラス工房  
〒891-0404  
指宿市東方3005  
電話 099-8000-86635  
FAX 099-8000-86635  
<http://www1.bbiq.jp/n-glass/>

広告